沖永良部島のヤッコ踊り

【所　　在　　地】大島郡和泊町，大島郡知名町（沖永良部島ヤッコ踊り保存会）
【種　　　　別】県指定無形民俗文化財
【指定年月日】平成２６年４月２２日

沖永良部島の各集落で伝承されている「ヤッコ踊り」は，慶長 14（1609）年の薩摩藩の琉球侵攻以降，鹿児島に赴いた島民が，大隅及び都城地方の盆踊り（奴踊り）を伝えたことにはじまる。

「ヤッコ」とは，勇ましい男性という意味で，江戸時代初期の武家の供揃えである奴行列（奴ぶり）と，琉球系統の歌（ウシデーク，エイサーなど）が融合した地域的特色のある独創的な踊りとなった。

古来，沖永良部島では，神祭の時に踊る「八月踊り」があったが，次第に「ヤッコ踊り」が広まり，薩摩の役人をもてなす舞台芸能として発展し，各集落で代々踊り継がれている。

踊りの内容について，一般的に３又は４部構成で，歌詞は共通性はあるものの細かい所作については各集落で異なっている。羽織や浴衣，芭蕉着物（バシャチバラ）姿に襷掛けをして踊る男踊りである。

現在，和泊町の国頭（くにがみ），出花（でぎ），畦布（あぜふ），西原（にしばる），玉城（たまじろ），根折（ねおり）地区及び知名町の瀬利覚（せりかく），正名（まさな），田皆（たみな）地区が合同で保存会を結成し，伝承している。